



アラ！^{アラ}つつい手がでる「**新**手の罠」

－アライグマだけが自ら入る「捕獲器」を開発－

開発の背景・ニーズ

特定外来生物に指定されているアライグマは、全国的に生息数を拡大させており、農作物に被害を及ぼすだけでなく、生態系破壊、人への感染症媒介への不安等から捕獲強化が望まれています。しかし、従来の捕獲器（箱罠）では、アライグマ以外の動物（イヌ・ネコ等のペット類）が捕獲される「錯誤捕獲」事例が多く、捕獲が進んでいません。

そこで、アライグマのみを選択的に捕獲する捕獲器の開発に取り組みました。

成果の内容

アライグマの大きな特徴である前肢の指は5本あり、ネコやタヌキ等と比べて著しく長く、人間のよう^に物を器用につかむことができます。そこで、扉に塩ビ管を取り付け、アライグマが手を伸ばしエサをつかみ取ることで扉が開く仕掛けを作りました。

その結果、この捕獲器ではイヌ・ネコのペット類、タヌキ、キツネ等の野生獣類は扉を開けることができず、アライグマ以外は捕獲されないことを確認しました。



アライグマの前肢



開発した捕獲器



前肢で扉をあける



アライグマが扉を開けて入る動画がこちらで見れます

愛知県農業への貢献

アライグマの捕獲が進むことで果樹・野菜等の農作物被害が減少します。

錯誤捕獲の心配がないため都市部、農村部問わず、どこでも設置が可能です。県域全体で使用することで、県内のアライグマの個体数を大幅に減らすことが期待できます。